

1990.9
第3号

博物館だより

大津市歴史博物館



円福院 絹本着色両界曼荼羅図(金剛界)

開館記念特別展

10月28日～12月2日

「仏教文化の聖地・大津」を開催

大津市歴史博物館は、いよいよ十月二十八日に開館します。そこで、開館を記念して、常設展示に加え、各寺社の全面的な協力をお願いいただき、大津市のほころ文化財のなかでも重きをなす仏教文化の特別展を開催することにしました。会期は、開館から約一カ月。国宝・重文級の作品を一堂に集めた特別展です。ご期待ください。

大津は港町・城下町・宿場町・門前町など様々な顔をもつ都市ですが、日本史のなかで大津がはたした役割ないし意義というものを目を向けるとき、この地に花ひらき、各地に伝播していった仏教文化というものが大きくクローズアップされてきます。

大津には石山寺・延暦寺・園城寺・西教寺などの著名な大寺のほか地元の人々の厚い信仰を支えられた数多くの寺々があり、たくさんの宗教家が活躍してきました。最澄・円仁・円珍・良源・源信・蓮如・真盛らがそれですが、彼らの生み出した思想や活動は、大津だけではなく広く日本の仏教史や文化史のなかにおいても非常に重要なものです。そのような意味で、大津を舞台として展開した仏教文化の諸相をさぐることは、広く日本の仏教文化について考えることに通じると思われます。いいかえれば、大津は歴史上、奈良とならぶ日本仏教史の一大中心地であるということができるとでしょう。

たびかさなる天災・人災を経ているとはいえ、市内の各寺社にはたいへん質の高い仏教文化の遺産が数多く伝えられています。そのなかには、すでに国宝・重要文化財などに指定されているものもあり、一方あまり知られていないものもあります。今回の特別展は、主として大津市内に伝来したこれら有名・無名の作品を一堂に会することにより、大津の文化的伝統や歴史的遺産の豊かさについて紹介してゆこうとするものです。

今回陳列する作品は絵画・彫刻・工芸品・書跡・古文書・考古資料・歴史資料のすべてにわたりますが、総数は一二〇件に及び、そのなかには国宝五件、重要文化財三五件を含んでいます。

開館記念特別展の概要

特別展は次のような三部構成になります。各部の概要と主な展示作品を紹介しましょう。

(1) 仏教文化の開花

大津市域に仏教文化が根づいた飛鳥・白鳳時代の寺院址から出土した遺物から陳列をはじめ、次に奈良時代に朝廷によって建立された大寺石山寺の草創期の遺品を展示します。つづいて比叡山延暦寺に天台宗を開いた伝教大師最澄、そのあとをひきついで天台宗の発展に努力した慈覚大師円仁、慈恵大師良源、さらには園城寺に入って寺門派の祖となった智証大師円珍らの思想と活動に関する品々を陳列します。時代的には平安時代前半期までを扱います。



須賀神社 木造薬師如来坐像 (県指定)

〈主な展示作品〉

- ・国 宝 崇福寺塔心礎納置品(近江神宮蔵)
- ・重要文化財 絹本着色石山寺縁起(石山寺蔵)
- ・国 宝 伝教大師将来目録(延暦寺蔵)
- ・重要文化財 木造護法善神立像(園城寺蔵)
- ・重要文化財 円仁入唐求法目録

(京都国立博物館蔵)

(2) 絢爛たる仏の国

古代の仏教は貴族仏教としての性格が強いため、仏教文化もこの時期にはたいへん華やかなものでした。彼らは現世・来世の両方において幸福を求め、さまざまなかたちの信仰に身をゆだねます。苦痛からのがれ、幸いを招くため、石山寺などの有名な霊場に競って参詣したり、密教の仏や密教独特の修法をおこなう僧侶に帰依したほか、法華経の力に頼り、一方では死後に極楽浄土へ生まれることを切実に望んだりもしました。

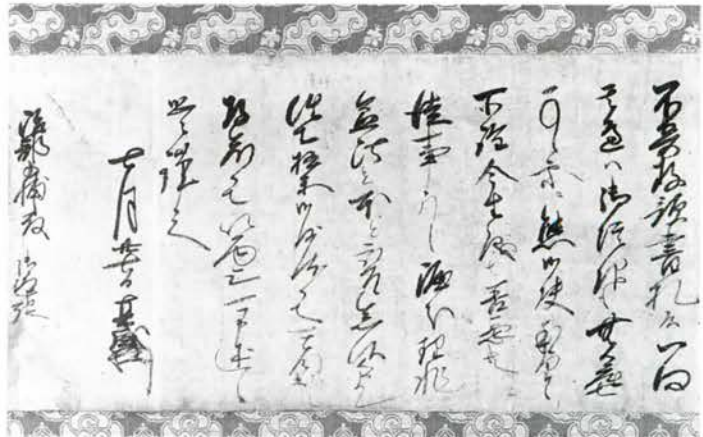
なお、当時は神仏習合の時代で、比叡山とその仏教を護る日吉山王の神は厚い崇敬をうけました。

〈主な展示作品〉

- ・国 宝 金銅経箱(延暦寺蔵)
- ・重要文化財 木造十一面観音立像 (盛安寺蔵)
- ・重要文化財 法華経(西教寺蔵)
- ・国 宝 絹本着色六道絵 (聖衆来迎寺蔵)
- ・重要文化財 絹本着色阿弥陀二十五菩薩来迎図(新知恩院蔵)

(3) 地にねづく仏教

中世から近世にかけて、つまり鎌倉時代から室町時代を経て江戸時代へとくだるにつれて、仏教は急速に庶民の間に浸透してゆきます。堅田での活動を展開した蓮如や、西教寺を中興した真盛らによって念仏がひろまったほか、石山寺や三井寺観音堂・岩間寺など西国三十三所の観音霊場の巡礼も流行し、また山深い葛川明王院は不動明王の霊地として尊崇されたのです。庶民の間に仏教を平易に説く説教僧があらわれ、また街道では仏像を描いた大津絵が生まれます。巡礼が庶民のひそかな楽しみとなるなかで、やがて寺院は一つ



実成坊 真盛上人書状 (治部少輔宛)



安藤広重画「近江八景・石山秋月」

の名所となつて絵のなかに描かれてゆきます。今日にみられるように、寺院への参拝が同時に観光をも兼ねる風潮に通じるものといえます。

〈主な展示作品〉

- ・ 県指定文化財 木造薬師如来立像(須賀神社蔵)
- ・ 県指定文化財 木造菩薩形坐像(寂光寺蔵)
- ・ 県指定文化財 懸仏(明王院蔵)
- ・ 絹本着色親鸞蓮如来坐像(本福寺蔵)
- ・ 紙本版画近江八景図(本館蔵)

なお会期中に当館講堂において二度の講演会を開催します。いずれも入場は無料です(整理券が必要)。

- ① 十一月十日(日) 午後二時から三時三十分
 - ・ 論題「日本史上における大津の仏教文化」
 - ・ 講師 林屋辰三郎氏(京都大学名誉教授)
- ② 十一月十七日(土) 午後二時から三時三十分
 - ・ 論題「大津の仏教美術」
 - ・ 講師 清水善三氏(京都大学文学部教授)

収蔵品紹介 ②

京都・大津間の汽車時刻及び運賃表

明治十三年(一八八〇)七月発行 紙本版画

縦二五・七センチ 横三四・五センチ

この汽車時刻・運賃表は、京都・大津間に始めて鉄道が開通したときに発行されたもので、上に京都から大津までの路線図が彩色で描かれ、下に京都・大津間の所要時間や運賃がごまかく記されています。

まず路線から見ると、京都を出発した汽車は、稲荷駅(現京都市伏見区)まで南下するルート(現在の奈良線)を進み、稲荷駅から山科盆地の南部を横断し、さらに逢坂山トンネルを抜けて大津市街へ出ます。そして、現在の国道一号線のルートを通り、馬場駅(現在の膳所駅)まで行くと、そこでV字型に折り返し、大津(現在の浜大津)に到着するという、現在とはかなり違ったルートを通っていました。

馬場駅で、登山列車のようにスイッチバックする方式をとったのは、逢坂山トンネルから大津の湖岸までの勾配を、車両を引いて直接行くのに、当時の機関車の動力では無理だったからです。ちなみに現在のような路線になったのは、それからずっと後の、大正十年(一九二二)になってからです。日本の鉄道が幕を開けた時代には、今ではあたりまえのような事に、人々は苦心していたのです。

さて、京都・大津間の所要時間ですが、この時刻表を見ると、一時間あまり、ざっと今の六倍ほどの時間がかかっていたことがわかります。始発は朝の五時五

京都・大津間の汽車時刻及び運賃表

八分、終列車が夜の七時五五分で、一日に一〇往復。途中の停車駅は、稲荷・山科・大谷・馬場・石場の各駅でした。運賃は、上等・中等・下等に分かれ、上等が五〇銭、下等が一五銭と、かなりの開きがあったようです。明治十年で白米一〇キロの小売価格が五一銭(東京の相場)であったことを考えれば、今の比較はすぐにできないものの、それでも結構な運賃だったといえるでしょう。

一枚のなんでもない時刻・運賃表からでも、当時の人々の生活のありさまが眼に浮かんでくるようです。この資料は、博物館の常設展示に陳列しますので、そのときにでも、とくと御覧ください。

常設展示の概要 (3)

今回は、前回お知らせしました「テーマ展示」ともに常設展示の二本柱となる「歴史年表展示」についてご紹介いたします。

「歴史年表展示」は、大津市の歴史の特色をトピックで紹介する「テーマ展示」を補完して、歴史のタネ糸の流れで、もう一度、大津市の歴史と文化をとらえ直そうとするものです。

展示は、大津市の主な歴史年表に対応して、その時代の実物資料や写真パネル、あるいは復元イラストなど、資料で大津市の歴史の流れを語らせようとするものです。ああ、この建物は、この見たことのあるこの写真は、この時代の、こういう歴史を語っていたのかということを見発していただけるよう、努力を重ねています。

その工夫の一つとして、歴史を復元するイラストをいくつかつくってみました。とくに、土器とか、礎石列とかしか実物資料や写真などでは表現できない古代の展示には、復元イラストを多用しています。

石山貝塚をつくった人々の生活は、のろし台だという高地性集落とはどんなものだったのだろうか、また大津市に特有の古墳の内部はどんなだったのか、小学生のみなさんの疑問にもお答えできるように、イメージイラストをつくっています。

冬休みの自由研究に、大津の歴史と文化をテーマにしていたきたい。そのような小・中学生の皆さんに多数ご来館いただけるよう、館員一同がんばっています。ご期待ください。

博物館建設日記抄

平成2年4月
平成2年8月

- 4月1日 正式名「大津市歴史博物館」となり、館員14名の体制に
- 7日 小島一馬家資料調査
- 8日 膳所歴史資料室オープンされる（膳所市民センター内）
- 9日 今津町史編さん室一行来館
- 10日 顧問会議開催
- 12日 日吉山王祭撮影（13日も）
- 16日 館内に常設展示工事事務所が開設される
- 17日 村井しづ家資料調査
- 19日 館周辺の植栽工事関係者会議開催
- 20日 名古屋市博物館の「三井寺秘宝展」出席、本長寺資料調査
- 21日 大津市の市展委員会一行来館
- 5月1日 中国黒龍江省チチハル市長ら六人来館
- 2日 尼崎市総合文化センター一行来館
- 11日 近畿都市教育長会一行来館
- 16日 滋賀県建築士会大津支部一行来館
- 17日 関西博物館協議会に出席。初の防火訓練
- 29日 歴史博物館進入道路工事関係者打合わせ
- 6月7日 東京国立文化財研究所石川陸郎主任研究官現場指導に来館
- 11日 京都国立博物館の「三井寺秘宝展」出席
- 13日 収蔵品収集審査会開催
- 20日 県立大津商業高校の歴史博進入路現地立合い
- 21日 歴史博物館外構修景工程会議開催
- 22日 滋賀県博物館協議会に出席。顧問会議（迎

賓室）開催。中村武三氏来館
ふるさと大津歴史教室「膳所焼と感恩寺」開く、定員百名

7月7日 歴史教室「逢坂の歴史と伝説を訪ねて」開く、定員百名

8日 歴史教室「瀬田唐橋と建部大社」開く、定員百名

7月11日 東文研石川陸郎主任研究官、文化庁文化財

保護管理指導官鈴木則夫氏来館

12日 歴史博物館進入路工事打合わせ

14日 歴史教室「仰木の里に秘仏を求めて」開く、定員百名

19日 延暦寺秘宝館・本福寺（堅田）資料調査

24日 常設展示室展示ケースできあがる

27日 田中琢奈良国立埋蔵文化財センター長来館

8月1日 夏休み親子バスセミナー13名来館（3日も）

10日 アメリカのクリーブランド美術館カンニン

28日 東文研石川陸郎主任研究官の現場指導

ガム博士来館

「博物館だより」第3号ができました。今回は、開館記念特別展の情報をとおとけしました。

博物館だより 第3号

発行日 平成二年九月一日

編集 大津市歴史博物館

発行所 大津市御陵町二二二

大津市歴史博物館

電話（〇七五）二二二二〇〇代